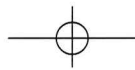
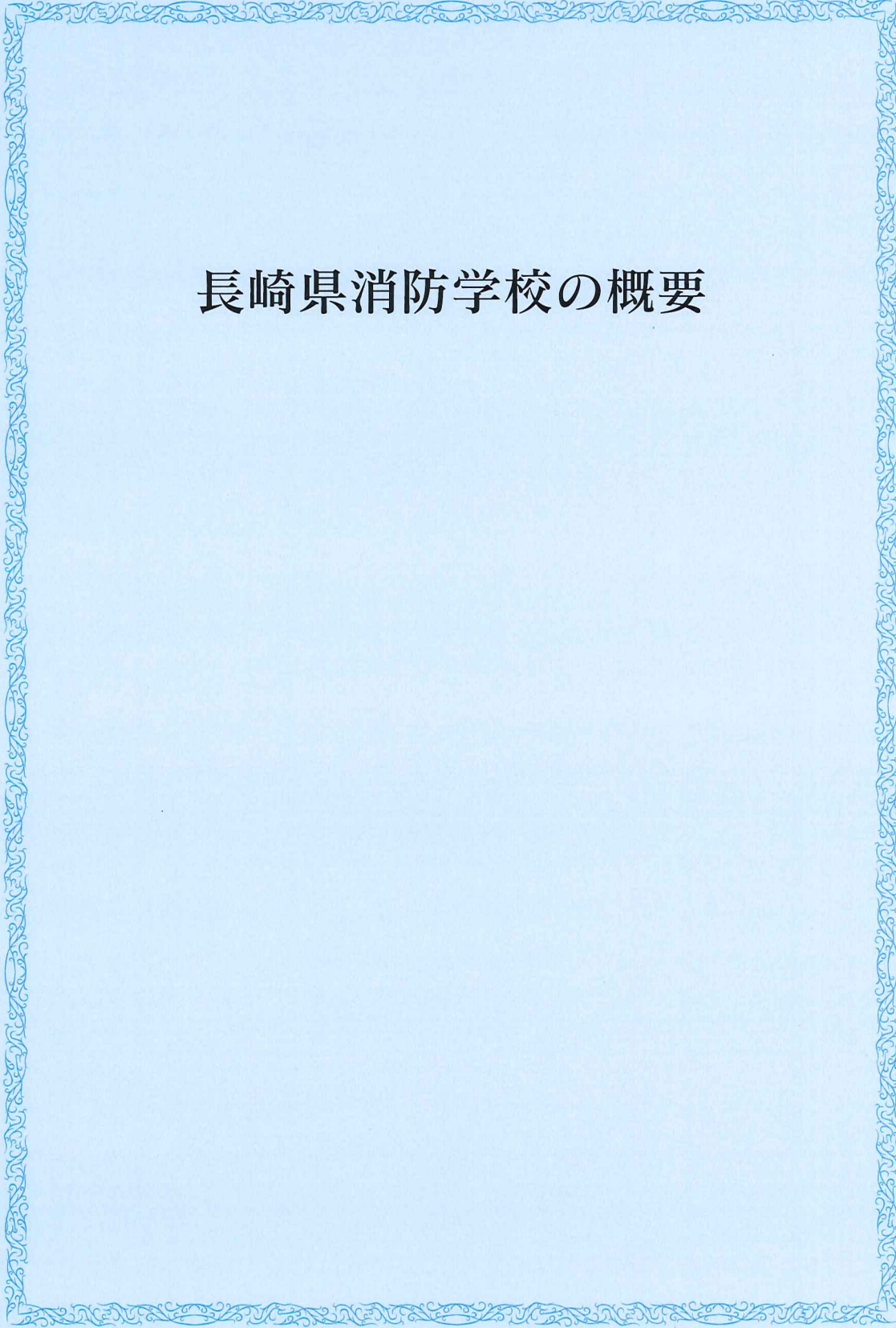
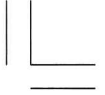
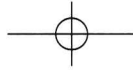


長崎県消防学校の概要



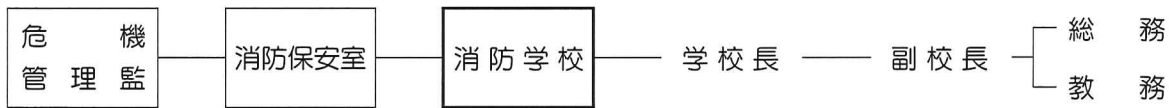


概 要

消防学校の概要

- 1 所在地 〒856-0815 長崎県大村市森園町663-6
 電話 0957-53-6155
 FAX 0957-53-6154
 E-mail s27300@pref.nagasaki.lg.jp
 ホームページ (URL:http://www.pref.nagasaki.jp/s_gakkou/)

2 組織 (平成24年4月1日現在)



3 沿革

- 昭和37年 6月1日 長崎県消防学校を長崎市城山町1丁目1番地に設置した。
 6月18日 第1回幹部(団長)科に消防団員が入校した。
 教育については、短期の消防団員科を優先し、幹部(団長)科、初任科、専科(機関、ラッパ、救助、救急)を実施した。

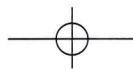
- 昭和38年 当初は主として消防団員教育が中心であったが、本年度から初任科教育修了者に対して、普通教育や市町村の消防事務遂行上必要な知識の修得のため、消防吏員科及び指導員科を新設実施した。
 10月22日 長崎県消防学校学友会が設立(初代会長 津田醇一)された。

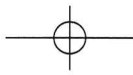


城山校舎の第1回修了生

- 昭和39年 消防職員第1期初任科教育1回、消防団員普通科(夜間)を2回新設実施した。
- 昭和40年 島原市、諫早市、大村市、福江市に常備消防が設置されたため、これらの消防職員に対し初任科教育を2回増設して実施した。
- 昭和41年 住居標示に関する法律により、消防学校の住所が城栄町41番82号と改称された。本年度からは、消防職員の現任者教育を重視し、普通科を1ヶ月間新設実施した。
- 昭和42年 4月1日 教官陣容充実のため、長崎市消防局から教官1名の派遣を受けた。
 10月末日 上部訓練場(約7,000㎡)が、工事費約900万円で新設された。
- 昭和43年 3月1日 消防学校の校旗及び校歌、校訓が制定された。
- 昭和44年 長崎国体の開催に伴い、消防職員第1回予防査察科教育を新設実施した。
 4月1日 教官陣容充実のため、佐世保市消防局から教官1名の派遣を受けた。
- 昭和46年 4月1日 消防学校は、地方課所管から消防防災課所管となった。
 11月末日 校舎に4階を増築し、屋内訓練場施設を設けた。

長崎県消防学校の概要





概 要

昭和 47 年 消防本部及び消防署を置かなければならない市町村を定める政令（政令第170号）により23カ所が消防本部の義務設置町村として指定を受けたのに伴い、消防職員初任科（3回実施）教育重視のため、消防団教育は、現地訓練及び移動教室で補った。
11月8日 長崎県消防学校創立10周年記念式典を挙行了した。

昭和 51 年 昭和37年から昭和45年まで、消防団員教育を重視して行ったが、広域常備化の進展に対応し昭和46年～昭和50年は、消防職員（初任科）教育を重視し実施した。広域常備消防計画の完成により、消防職員初任科教育期間4ヶ月を6ヶ月とし教育の充実を図った。また、消防機関の組織体制、施設装備の近代化に対応し、消防職員初級幹部科及び専科（救急科、予防査察科、無線通信科）等を新設し、消防団員についても、幹部科特に副団長科を取り入れて上級幹部の資質の向上を図った。



救 急 科

昭和 52 年 県医師会等の協力を得て、特に救急専科教育の充実を図った。

昭和 55 年 教育訓練内容の充実強化を図るため、消防学校の移転を検討していたが、移転先を大村市に決定した。

昭和 57 年 教育訓練内容の充実強化を図るため、大村市に新校舎を建設着工（総事業費1,326,658千円）した。
7月9日 長崎県消防学校創立20周年記念式典を挙行了した。



消防学校創立20周年記念式典

昭和 58 年 3月15日 新校舎落成式を挙行了した。
4月1日 大村市森園町663番地6に新校開校した。
新校開校とともに高度情報化に対応し、消防職員専科（危険物、火災調査、査察、操法指導員、救助課程）等新設し、資質の向上を図った。
教官による当直制度を廃止（S58年3月）し、寮生活の管理指導を徹底するため、非常勤講師（舎監）2名を配置した。



大村市に新校開校

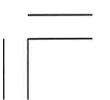
昭和 59 年 9月 燃焼実験室を改修した。

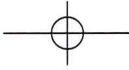
昭和 61 年 1月 ホース乾燥塔施設を設置した。
4月1日 教官陣容充実のため、県央（組）消防本部から教官1名の派遣をうけた。

昭和 62 年 3月7日 長崎県消防学校学友会会長（初代会長 津田 醇一）が辞任された。
6月3日 長崎県消防学校学友会会長（二代目会長 吉原 源次）が就任された。

平成 3 年 4月1日 長崎県のシンボルマークが制定されたのに伴い、校旗を作製した。

平成 4 年 10月15日 長崎県消防学校創立30周年記念式典を挙行了した。
消防職員第1期救急II課程を開始した。
（救急I課程～1回・救急II課程～1回）





概 要

平成 5 年 県消防協会代議員の要望により、折りたたみ操法に加え、全国操法大会に準じた二重巻き操法の教育を開始した。
消防長会の要望により、救助科にて消防航空隊員養成のための防災ヘリコプター隊員教育(3日間・座学)を開始した。



旧防災ヘリをバックに救助科学生

平成 6 年 消防職員救急課程をⅠ課程1回、Ⅱ課程2回開始することとした。
応急手当指導員講習Ⅰの教育課程を開始した。

平成 7 年 一般の入校生に損害保険を付保することとした。
寮の冷暖房設備を完備した。

平成 8 年 4月1日 派遣教官の派遣期間を2年から3年へ移行していただいた。
8月29日 消防職員初任科教育並びに教育研修の一環として、佐賀県消防学校にて両県消防学校の交流会を実施し、今後も交互に訪問し、継続実施することとした。
消防団ラッパ科教育を年2回教育を隊長・初任者に区別し変更実施した。
第1回災害ボランティア研修課程を開始した。
第1回県及び市町村新入職員防災研修課程を開始した。

平成 9 年 6月24日 長崎県消防学校学友会会長(第2代会長 吉原 源次)が辞任された。
〃 長崎県消防学校学友会会長(第3代会長 福武 靖夫)が就任された。
消防職員初任科教育期間中に本校初めての公開授業を実施した。
第1回少年消防クラブ研修課程(宿泊研修)を開始した。

平成 10 年 1月 消防職員第1期救急標準課程を開始した。(救急Ⅰ課程を廃止)
(救急標準課程～1回、救急Ⅱ課程～1回実施)
3月 地震体験車が本県に導入されたことに伴い、4月1日から消防学校に配置された。
7月1日 消防防災課職員(消防)1名について、消防学校勤務の兼務が発令された。



地震体験車

平成 11 年 2月17日 地震体験車の車庫が駐車場北側に整備された。
4月1日 教官陣容の充実のため、島原(組)消防本部から教官1名の派遣を受けた。

平成 12 年 3月 女子浴室(寮棟1階)を拡幅改修した。
4月5日 県内初の女性消防士2名(長崎市採用)を初任科生として受け入れた。
7月 女性専用寄宿舍(平家建て)を寮棟東側に建設した。

平成 13 年 3月 救急教育訓練の充実のため高規格救急自動車を購入した。
8月 男子浴室(寮棟1階)を改修した。

平成 14 年 7月 アスファルト屋外訓練場を改修した。
9月 水槽付消防ポンプ自動車を更新整備した。
11月1日 創立40周年記念誌を発行した。

長崎県消防学校の概要





概 要

平成 15 年 4月1日 消防学校の所管が総務部消防防災課から総務部危機管理・消防防災課となった。

平成 16 年 2月 小型動力ポンプ付き積載車を購入した。
 3月 「消防学校教育訓練の基準」の全面改正に伴い「長崎県消防学校規則」を改正した。
 11月 消防職員第1期「予防査察科」を開始した。
 12月 消防職員「中級幹部特別研修」を昭和63年以来16年ぶりに実施した。

平成 17 年 3月 消防職員第1期「気管挿管講習」を開始した。
 10月 消防職員第1期「上級幹部科」を開始した。
 10月 消防職員第1期「特殊災害科」を開始した。



特殊災害科

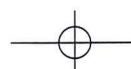
平成 18 年 2月～3月 大村市で発生した「グループホーム火災（死者7名）」を踏まえ、「グループホーム等社会福祉施設職員防火研修」を9回（433名）を実施した。
 3月 消防ポンプ自動車（CD-1）を更新整備した。
 3月 特殊災害用（NBC災害対応）の資機材の整備充実を図った。
 4月1日 消防学校の所管が総務部危機管理・消防防災課から防災危機管理監消防保安室となった。
 6月 ポンプ操法（水出し）に伴い、アスファルト訓練場の改修整備を図った。

平成 19 年 4月1日 教官陣容の充実のため、五島市消防本部から教官1名（3年間）の派遣を受けた。
 4月 消防職員の大量退職に併せ、平成28年度までの今後約10年間の予定で、消防職員初任科教育を年2回（前期・後期各5ヶ月間）に分けて実施。（初任科の年間複数実施は33年ぶり）
 6月 消防団ラッパ科は平成8年から隊長・初任者を区別実施していたが、入校生減少を受けて指揮者・初任者を合同実施とし、年1回に変更実施した。
 10月・11月 消防団員の入校促進のため、「分団長・副分団長課程」及び「部長・班長課程」の各1回を「金土開催」で実施した。



ラッパ科（指揮者・初任者合同）

平成 20 年 1月 「長崎県消防ポンプ操法実施要領（二重巻折りたたみ）」を「全国消防操法大会操法実施要領」に準じた実放水方式の操法要領を主体とした内容に全面改訂し第3版として発刊した。
 3月 救助用資機材の整備充実を図った。
 4月 食堂の調理業務委託について、一般競争入札制度を導入した。
 11月 緊急消防援助隊野営資機材及び搬送用トラックの整備を図った。



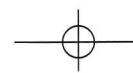
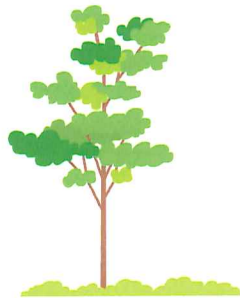


概 要

- 平成 21 年 11月 寮棟の外壁改修工事を実施した。
12月 訓練棟のレンジャーネットの取替工事を実施した。
-
- 平成 22 年 3月 屋内訓練場の床面の改修工事を実施した。
4月1日 五島市消防本部からの派遣教官の任期終了に伴い、対馬市消防本部から教官1名（3年間）の派遣を受けた。
5月11日 長崎県消防学校学友会会長（第3代会長 福武 靖夫）が辞任された。
6月15日 長崎県消防学校学友会会長（第4代会長 山本 豊一郎）が就任された。
-
- 平成 23 年 3月 本館玄関ロビー内に第2講師控室を新設
3月31日 長崎県消防学校学友会会長（4代会長 山本 豊一郎）が辞任された。
6月14日 長崎県消防学校学友会会長（5代会長 半田 三知生）が就任された。



長崎県消防学校の概要



概 要

4 施設概要

(1) 敷 地

31,400.18㎡ { 県有地 18,947.01㎡
大村市有地 12,453.17㎡

(2) 建 物

延 4,645.24㎡

種 別	構 造	延面積(㎡)	内 容
本 館	鉄筋3階	1,340.60	1階 校長室、職員室、講師控室(2)、医務室、倉庫
			2階 第1教室、第2教室、休憩ホール、図書室
			3階 視聴覚教室、展示室、研修室
寮 棟	鉄筋3階	1,317.33	1階 食堂、娯楽室、舎監室、浴室(2)
			2~3階 寮室(兼自習室)12室(72人) 静養室(兼寮室)8人
	鉄骨平屋	36.48	女子専用宿舎(兼自習室)浴室(4人)
訓練塔	鉄骨・鉄筋 地上8階 地下1階 (28.7m)	287.60	不燃性ガス消火設備、粉末消火設備、連結送水管設備、耐煙迷路訓練室
補助訓練塔	鉄筋5階 (18.2m)	168.40	燃焼実験室、補助訓練設備
屋内練習場	鉄骨平屋	912.25	救助訓練設備、バレーコート2、バトミントンコート3
車 庫	鉄骨平屋	405.00	屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、水噴霧設備、ドレンチャー設備、泡消火設備
		38.70	地震体験専用車庫
機械電気室	鉄筋平屋	100.00	
体育倉庫	鉄骨平屋	38.88	
放水訓練設備	鉄筋		放水訓練壁、水槽(40.00㎡)

5 配置図

